

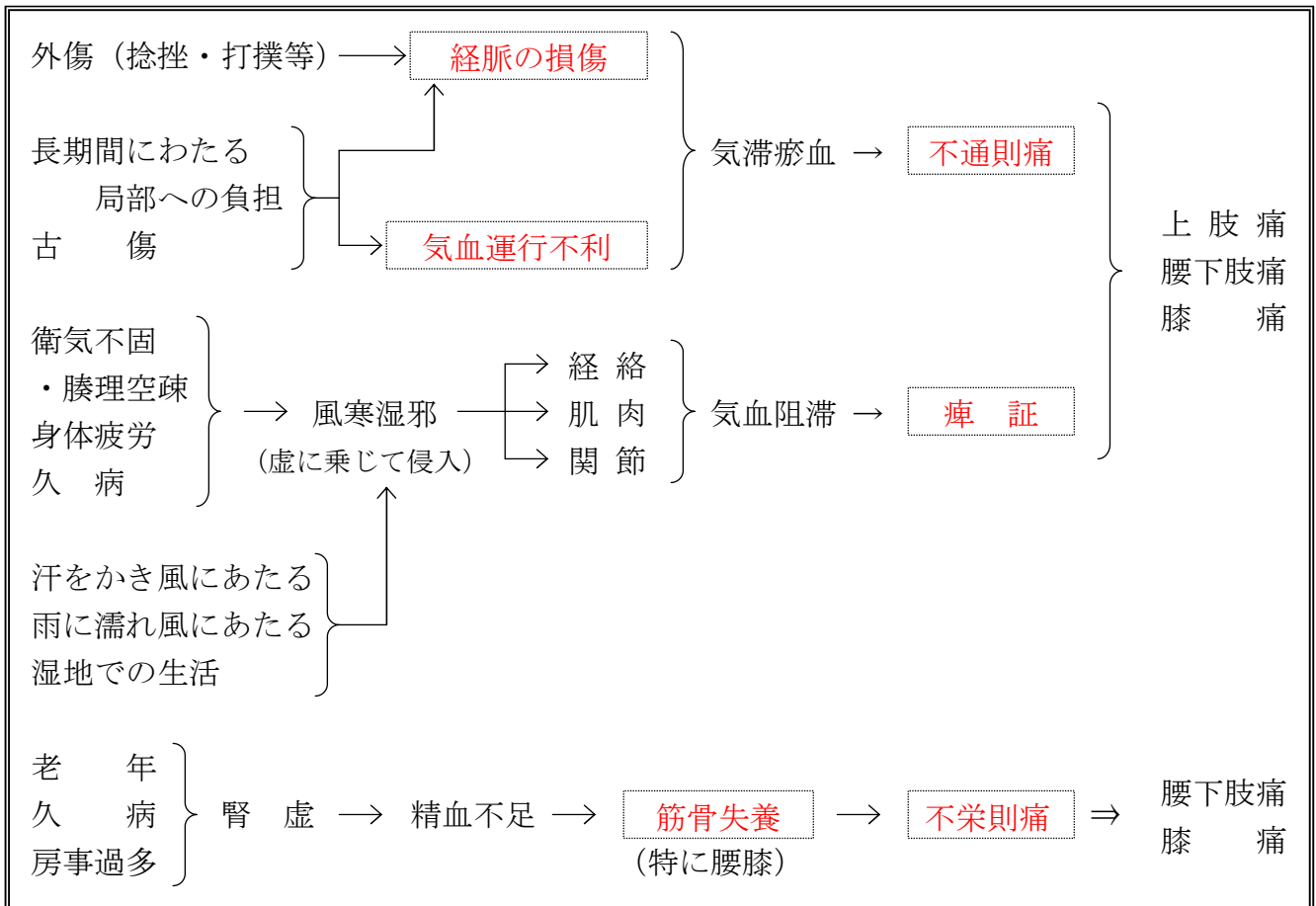
第19講 『上肢痛・腰下肢痛・膝痛』

: 上肢痛、腰下肢痛、膝痛に対する東洋医学的な治療原則は基本的に同じである。

【分類】

- 『上肢痛』には[外傷・労損]によるものと[痺証]によるものがある。
- 『腰下肢痛・膝痛』には[外傷・労損]、[痺証]及び[腎虚]によるものがある。

【病因病機】



【弁証の要点】

(1) 外傷・労損によるもの

- 外傷史、古傷、長期間の局部への負担の経歴がある。
- 痛みが固定性である (瘀血)
- 疲れると悪化する (労損)

(2) 腎虚によるもの

- ┌ 発病が緩慢で痛みは隠痛
- └ 随伴症状として腎虚症状がみられる

(3) 痺証型

- ┌ 『痺証』を参照のこと
- └ 痛痺・行痺・着痺などがある

【 症状と処方例 】

- * 腰痛を例に取り紹介する。
- * 上肢痛・膝痛は腰痛の選穴を参考に局部選穴を加えられたし。

《 主選穴 》

	経 絡	取 穴 部 位
腎 兪	膀胱経	第 2・3 腰椎棘突起間の外 1 寸 5 分
大腸兪	膀胱経	第 4・5 腰椎棘突起間の外 1 寸 5 分
委 中	膀胱経	膝窩横紋の中央

1. 外傷・労損による腰痛

[症 状] 腰部が強ばり痛む (外傷：刺痛・脹痛； 労損：酸痛)、寝返りがうてない、膝窩に絡脈・瘀血がよく見られる。舌脈にはあまり変化が現れない。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
腎 兪	膀胱経	疏通経絡	第 2・3 腰椎棘突起間の外 1 寸 5 分
委 中	膀胱経		膝窩横紋の中央
環 跳	胆 経		股関節を屈し、股関節横紋の外端、大転子の前上方陥凹部
大腸兪	膀胱経		第 4・5 腰椎棘突起間の外 1 寸 5 分
阿是穴	***		* * * * * * * * * *

- * 参考例：① 後谿、委中、大腸兪、阿是穴
- ② 委中、攢竹に刺絡と或いは圧痛点に刺絡抜缶

2. 寒湿による腰痛（痺証型）

[症状] 腰下肢が冷えて痛み、重だるさを伴う（冷痛、重痛）。寒冷刺激や悪天候によって増悪する。少し動くと軽減し静止時間が長いと強ばる。太陽型では下腿後部に放散し、少陽型では下腿外側に放散する。舌苔白膩、脈沈滑または沈遅。

[処方例]

太陽型：[脛骨神経]型

	経絡	意義	取穴部位
腎 兪	膀胱経	疏通経絡 散寒止痛	第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
大腸兪	膀胱経		第4・5腰椎棘突起間の外1寸5分
環 跳	胆 経		股関節を屈し、股関節横紋の外端、大転子の前上方陥凹部
委 中	膀胱経		膝窩横紋の中央
崑 崙	膀胱経		外果とアキレス腱の間、陥凹部

少陽型：[腓骨神経]型

	経絡	意義	取穴部位
大腸兪	膀胱経	疏通経絡 散寒止痛	第4・5腰椎棘突起間の外1寸5分
環 跳	胆 経		股関節を屈し、股関節横紋の外端、大転子の前上方陥凹部
風 市	奇 穴		大腿外側、膝の上7寸、両筋の間
陽陵泉	胆 経		腓骨頭前下際陥凹部
飛 陽	膀胱経		崑崙穴の上7寸、腓腹筋とヒラメ筋の間

- * 参考例：① 上記経穴のうち、太陽型では環跳、委中や承筋、少陽型には環跳、風市、陽陵泉、飛陽等に刺絡抜缶を施す。
② 施灸も有効
③ 推拿、牽引、通電、(漢方) などを含め総合的に施術する事が望ましい。

《 湯液外用薬 》

防風、荊芥、川芎、甘草：3g
 当帰、黄柏：6g
 蒼朮、円皮、川椒：10g
 苦参：15g

3. 腎虚による腰痛

[症状] 発病が緩慢で隠痛（鈍痛）、膝の痛みやだるさを伴うことが多い。無力感、四肢末端の冷え、生殖機能の減退、疲れると増悪。脈沈細弱。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
大腸兪	膀胱経	補腎壯骨止痛	第4・5腰椎棘突起間の外1寸5分
環跳	胆経		股関節を屈し、股関節横紋の外端、大転子の前上方陥凹部
委中	膀胱経		膝窩横紋の中央
腎兪	膀胱経		第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
太谿	腎経		内果とアキレス腱の間陥凹部

《方剂》

腎陰虚：六味地黄丸

腎陽虚：(金匱)腎気丸

《食療》

核桃仁炒萹菜（クルミとニラの炒め物）

材料：クルミ 30g、ニラ 少々、ゴマ油、塩 適量